

生誕150年

中村不折展

Nakamura Fusetsu Retrospective

特別協力 台東区立書道博物館



《下和環を抱いて泣く》(油彩、大正3年、第8回文展、信州高遠美術館蔵)

平成28年9月17日(土)～10月30日(日)

開館時間 = 9時～17時(入館は16時30分まで) 9月17日はオープニング式典のため午前10時開館

休館日 = 毎週火曜日、9月21日(水)、23日(金)、10月12日(水)

入館料 = 一般500円(400円)、小中学生150円(100円) * ()内は割引料金

主催=伊那市、伊那市教育委員会、信州高遠美術館

後援=長野県、信濃毎日新聞社、中日新聞社、読売新聞長野支局、朝日新聞長野総局、毎日新聞長野支局、日本経済新聞長野支局、産経新聞社長野支局、時事通信社長野支局、共同通信社長野支局、信州・市民新聞グループ(7紙)、アド・コマーシャル、アド・プランニング、(公財)信毎文化事業財団、(公財)八十二文化財団、SBC信越放送、NBS長野放送、TSBテレビ信州、abn長野朝日放送、FM長野、長野日報社、伊那ケーブルテレビジョン、伊那市有線放送農業協同組合、信州美術会伊那支部、伊那美術協会、伊那市民美術会、伊那市観光協会

信州高遠美術館

〒396-0213 長野県伊那市高遠町東高遠400(高遠城址公園南隣)

Tel 0265-94-3666 Fax 0265-94-3936 E-mail t-bjk@inacity.jp <http://www.inacity.jp>



《裸体習作》(木炭、明治34年、瀧野作) 台東区立書道博物館蔵



本年は、中村不折(1866-1943)が生まれて150年を迎えます。これを記念して、不折が創設した書道博物館が所蔵する初期作品、コレクションなどの貴重な資料、及び信州高遠美術館の所蔵作品を一堂に紹介します。

不折は、幕末の慶応2年に江戸に生まれ、幼少のころ両親の郷里・伊那に移り、23歳で上京するまでを信州で過ごしました。明治21年、画塾「不同舎」に入り、小山正太郎、浅井忠に師事、明治34年にはフランスに留学し、歴史画の巨匠ジャン=ポール・ローランス等に就いてアカデミックな油彩画技法を身につけました。帰国後は、太平洋画会会員、文展審査員、帝国美術院会員として洋画界で活躍する一方、書家、書道資料収集家としても大きな業績を残しています。

本展では、不折の油彩画・日本画・素描・書・本の装丁・挿絵などと、同時代に活躍した郷土の作家池上秀畝・小坂芝田の作品もあわせて展覧し、明治・大正・昭和にわたって芸術文化の礎を築いてきた不折の業績を回顧します。

※会期中、一部の作品の展示替えをおこないます。



《裸体習作》
木炭 明治35年頃 台東区立書道博物館蔵



《不折写景》より *半期のみ展示
明治44年 台東区立書道博物館蔵



《十二支帖》より *半期のみ展示
明治42年 台東区立書道博物館蔵



《一日市場村》
鉛筆 明治20年代 台東区立書道博物館蔵



《裸婦胸像》
油彩 明治36~38年 台東区立書道博物館蔵



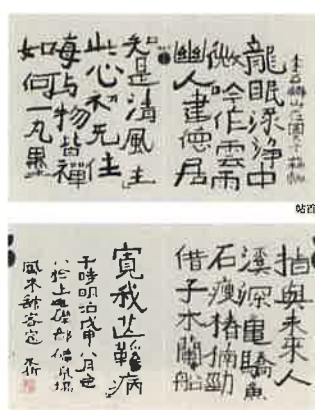
《熯平石経残石(公羊春秋経)》
後漢 台東区立書道博物館蔵



《舍利函銘》
隋 台東区立書道博物館蔵



《碓氷川秋景・布曳山春色》
信州高遠美術館蔵



《龍眠帖》 *半期ごとに頁替え
明治41年 台東区立書道博物館蔵

関連企画

ギャラリートーク
9月28日(水) 午前10時~
林誠氏(長野県立歴史館学芸員)
*参加には入館料が必要です。

市民ギャラリー

高遠ブックフェスティバル写真展

次回の展覧会

長野県美術教育研究大会上伊那大会
第70回記念展示「美術教育の歩み展」
11月4日(金)~11月12日(土)

お問い合わせ

信州高遠美術館
Tel 0265-94-3666

交通のご案内



【中央自動車道】— 伊那I.C.から国道361号を經由30分。諏訪I.C.から国道152号を經由50分。
【JR飯田線】— 伊那市駅・伊那北駅から高遠線JRバス25分で高遠駅。高遠駅から徒歩25分。

アクセスマップ

